

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 今泉 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 86人

② 算数 86人

5 留意事項

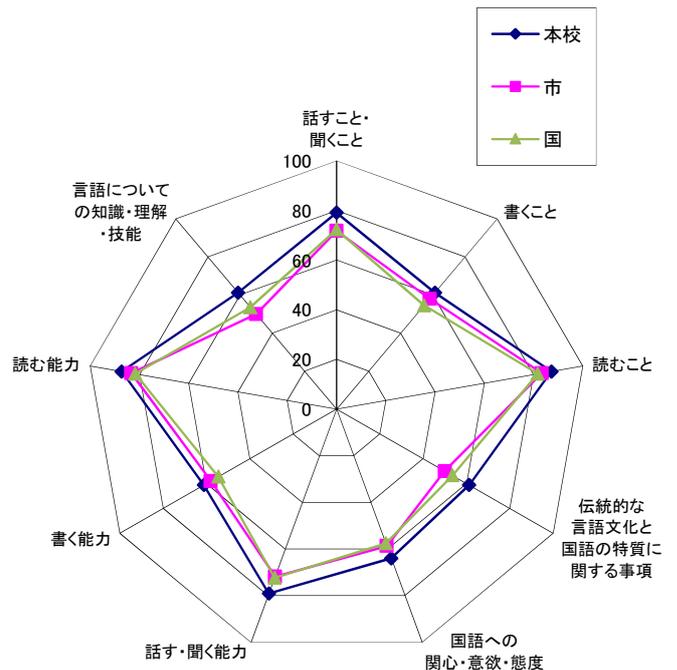
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.1	71.8	72.3
	書くこと	61.2	58.0	54.5
	読むこと	87.2	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.2	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	64.0	58.7	57.6
	話す・聞く能力	79.1	71.8	72.3
	書く能力	61.2	58.0	54.5
	読む能力	87.2	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	61.2	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

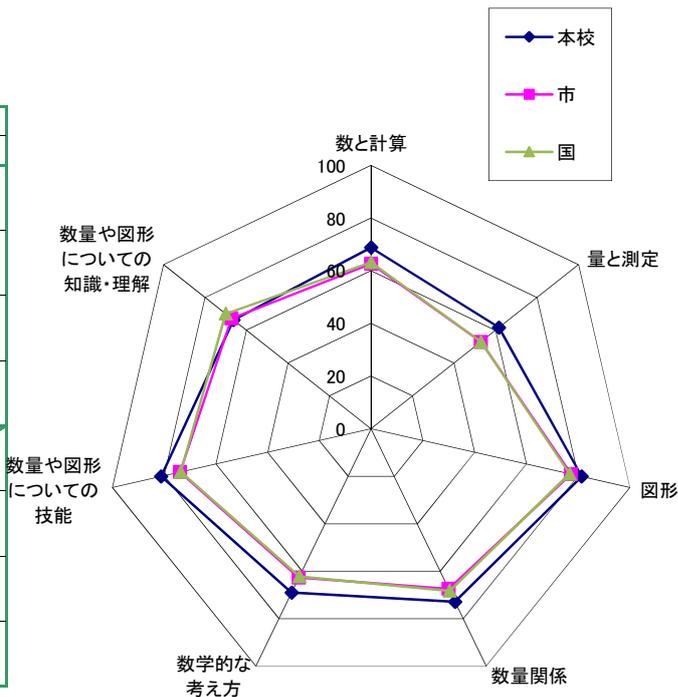
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる設問では、全国平均より8.5ポイント高い。しかし、この設問での無回答率が16.3%と多く、課題があると言える。</p>	<p>・国語の授業では、自分の意見や考えを述べたり、集中して相手の話を聞いたりする様子が見られる。どの教科においても話す聞く習慣が身に付けられるよう、今後も継続して指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○図表やグラフなどを用いた目的を捉える設問では、全国平均より11.4ポイント高い</p> <p>○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く設問では、全国平均より7.2ポイント高い。</p> <p>●情報を相手に分かりやすく伝えるための記述のし方の工夫を捉える設問では、全国平均とほぼ同じであった。</p>	<p>・テーマに沿って、文章から分かったことや疑問に思ったことをまとめて書く機会を多く設定するとともに、場に応じた適切な言葉を使って文章を書く力を高めていく。</p> <p>・国語の時間に限らず、自主学習や日記等、日常的な場面でも自分の思いや考えを書く機会を設けていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○文章を読み、それに対して適切な回答を選ぶ問題はよくできている。</p> <p>●問題文を読み、条件に合わせた文章で自分の考えを書くことに課題が見られる。また、無回答率が全国平均と比べて高い傾向がある。</p>	<p>・授業中に自分の考えを短文で書くなど、自分の考えを明確に表現する機会を設けていく。また、無回答率を減らすために文章を書く経験を多く積ませていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○漢字だけでなく、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることもよくできている。</p> <p>●漢字の書き取り問題は、平均するとよくできているが、問題によって正答率や無回答率の差が大きい。</p>	<p>・文章を書く際に、既習漢字を使うよう意識させる。また、漢字を反復練習したり、教科書を音読したりする中で、定期的に様々な漢字に触れる機会を意識的に設けていく。</p>

宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	68.8	62.7	63.2
	量と測定	61.6	52.9	52.9
	図形	81.4	77.3	76.7
	数量関係	72.9	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	69.0	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	81.1	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	66.3	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○四則計算や工夫して計算することの正答率が高く、学習内容の定着が図れていると考えられる。</p> <p>○●示された計算の仕方を解釈し、成り立つ性質を記述する設問では、本校の平均正答率が全国よりも10ポイント以上高いものの、無回答率が高く課題が見られる。</p> <p>●題意を理解し、除法の性質に基づいて示された式の意味を考える設問に課題が見られる。</p>	<p>・今後とも、基本的な計算の定着に向けた練習を継続していく。また、児童の状況に応じて取り組む課題の量や質を選べるようにすることで、個に応じた学習の定着を目指していく。</p> <p>・なぜそう考えられるのかなど、式や図、表を使って説明する学習活動を設定し、思考力、判断力、表現力の向上を目指していく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。その差はおよそ10ポイントあり、4領域の中で最も大きい。</p> <p>○場面の状況から、単体量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述する設問では、本校の正答率が7割を超えており、既習事項を活用して考えることができている。</p> <p>●示された面積の求め方を解釈する設問では、本校の正答率は全国平均より高いものの、記述して答えることに課題が見られる。</p>	<p>・問題文を読み、なぜそのように立式されるのかを自分の言葉で表現できるような時間を学習活動内に設定し、考え方の定着を目指したい。その上で、基本的な考え方を活用するような問題に繰り返し取り組み、習熟を目指していく。</p> <p>・設問に対して無解答となる児童は、学習結果を診断的に評価し、学習の仕方も含めて個別に支援することで、その子の成長を目指していく。</p>
図形	<p>平均正答率は国や市と比べて高い。</p> <p>○二つの合同な図形を、ずらしたり回したり裏返したりして、同じ長さの辺を合わせてつくり出せる形を選ぶ設問の正答率は70.9%で、全国平均を10.6ポイント上回る。図形の性質や構成要素に着目して形を構成することに良好な状況が見られる。</p> <p>●台形についての理解を問う設問の正答率は、全国平均より、やや低い。</p>	<p>・三角形や四角形の作図や、折ったり切ったりする操作活動を多く取り入れ、視覚的にまた、体験的に理解できるような授業展開を心がける。</p>
数量関係	<p>平均正答率は国や市と比べて高い。</p> <p>○加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする設問の正答率は73.3%で、全国平均を13.2ポイント上回る。四則計算の定着に良好な状況が見られる。</p> <p>●$1800 \div 6$は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ設問の正答率は40.7%で、全国平均より6.3ポイント低い。除法の式の意味の理解に課題が見られる。</p>	<p>・計算の意味についての理解を深めるために、計算をした後には計算した過程を振り返るよう指導していく。また、授業で、その式が表す意味について、全体で考える活動を取り入れるなど、指導の工夫を図っていく。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第6学年 児童質問紙

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問の肯定的回答率は90.7%、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問の肯定的回答率は98.9%と全国平均をそれぞれ9.5ポイント、12.8ポイント上回っている。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」の質問の肯定的回答率も89.5%と全国平均より10.5ポイント高い。児童は学校生活の中で、友達や教師とともに生活することの満足感や安心感が高いと思われる。今後も仲間と共に成長することができるような環境づくりに努めていく。

○「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。」の質問の肯定的回答率は75.6%で、全国平均を7ポイント上回っている。日本語教室があり多国籍の児童が在籍する本校であるからこそ友達の国についてもっと知りたいと意欲的になっていると考えられる。今後も親しみ学び合う環境を育てていく。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の質問の肯定的回答率は87.2%で全国平均を13.2ポイント上回っている。学級活動などで話し合いの活動を多く取り入れ、話し合うことで達成感が得られるような声掛けや支援を今後も続けていく。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。」の質問では、肯定的な回答が88.4%で全国平均を7.5ポイント上回っている。授業で話し合いの活動を多く取り入れたり、様々な意見を受け入れる環境を作ったりして活発な話し合いをしていく。

○「国語の勉強は好きですか」の質問の肯定的な回答は66.3%で全国平均を2.1ポイント上回っている。また「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」の質問の肯定的回答率は94.2%で全国平均を3ポイント上回り良好であった。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の質問の肯定的回答率は、58.1%で、全国平均を9.9ポイント下回っている。地域の行事を通して地域とのつながりが密になるよう、地域の行事等の情報を各種便りを通じて提供していく。

●「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」の質問の肯定的回答率は62.8%と県より1.4ポイント低い。各教科で、発表する場を積極的に設けていくとともに、自分の思いや考えがより相手に伝わるよう、理由や根拠を明確にして自分の考えを伝えられるようにする。

●「算数の勉強は好きですか」の質問では肯定的な回答が全国平均を3.5ポイント下回り、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」の質問でも肯定的な回答が87.7%で全国平均を3.5ポイント下回っている。今後、算数の学習において習熟度別学習を取り入れるなど意欲が高まるような支援を適宜取り入れていく。

●学校の授業時間以外の平日の過ごし方で、学習時間が1時間以上と回答した児童の割合は県の平均より3.7ポイント低い。また、読書時間においても、1時間以上と回答した児童の割合は12.8%と県の平均を3.4ポイント、国の平均を5.5ポイント下回っている。今後においても、家庭学習の内容や分量など、各学年に応じた指導を工夫していくとともに、家庭での読書についても呼び掛けていく。

宇都宮市立今泉小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
目標(めあて・ねらい)の共有化とふり返る時間の確保	児童が意欲をもって授業に取り組めるような学習課題を設定していく。また、児童が課題を受け止め、見直しをもって学習に取り組み、授業の終わりには自らの学習をふり返る時間を確保できるようにする。	「国語の勉強は好きですか」の質問の肯定的回答率は全国平均を2.1ポイント上回っていたが、「算数の勉強は好きですか」の質問の肯定的回答率は全国平均を3.5ポイント下回り、教科に差があった。今後も、児童の意欲を引き出し、主体的に学習に取り組めるような授業の工夫をしていく。
コミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫	授業の中で多様な形態で、自分の考えと友達の考えとを向かい合い、対話できるような場面を設定していく。また対話を通して学び合い、自分の思いや考えを表現できるような児童を育成していく。	「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の質問の肯定的回答率は87.2%と全国より13.2ポイント高い。しかし、授業で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」の質問の肯定的回答率は62.8%と県より1.4ポイント低かった。

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学校の授業時間以外の平日の過ごし方で、学習時間が1時間以上と回答した児童の割合は県の平均より低い。また、読書時間でも1時間以上と回答した児童の割合は県や国の平均を下回っていた。	家庭の過ごし方で、学習や読書等、児童が主体的に取り組めるよう、宿題の内容や分量などを工夫するとともに、家読を推進していく。	各学年に合わせた「家庭学習の手引き」を活用したり、学年だよりや学級・学年懇談等を活用したりして、家庭での過ごし方、家庭学習や読書について、継続して呼び掛けていく。